

サイエンスカンファレンス 2024

審査の方法

1. 目的

- ・次世代人材育成事業の各プログラムに参加する受講生の研鑽・活躍の場として、全国の受講生が交流し啓発し合い、今後の活動に向けてモチベーションを高める。
- ・探究活動の成果を発表することで、審査員、他機関教員、受講生等からの質疑、アドバイス、フィードバックを通じて新たな気付きを得る。
- ・発表で高い成績を取めた受講生への各賞（文部科学大臣賞（予定）、受講生投票賞等）の表彰等を通して発信力の強化を図り、受講生の活動成果を広く発信・共有する機会とする。

2. 参加機関： 50 機関程度 ※全機関が審査・表彰の対象

[小中の部]

30 機関程度

ジュニアドクター育成塾実施機関・経験機関

次世代科学技術チャレンジプログラム（小中型、小中大型）実施機関

[高校の部]

20 機関程度

グローバルサイエンスキャンパス実施機関・経験機関

次世代科学技術チャレンジプログラム（高校型、小中大型）実施機関

3. 審査員

[小中の部]

参加機関より 2 名程度選出し、審査委員会と協働して審査を行う。

[高校の部]

一次審査では、参加機関より 3 名程度選出し、審査委員会と協働して審査を行う。

二次審査は審査委員会のみで審査、各賞の選定を行う。

4. 表彰

[小中の部]

- ・優れた探究活動に対する賞として、審査員の採点による上位 10 件程度を「サイエンスカンファレンス 2024 研究発表大賞」として表彰する。
- ・継続した学習活動を後押し、また、今後のより一層の活躍を期待し「サイエンスカンファレンス 2024 優秀賞」として表彰する。
- ・相互発表の実施に伴い、審査員による審査とは別に受講生間で投票を行い、得票数の多い研究発表を「みんなが選ぶ研究発表賞（仮）」として表彰する。

[高校の部]

- ・二次審査に進んだ研究テーマの中から、文部科学大臣賞（予定）1件、科学技術振興機構理事長賞1件、審査委員長特別賞2件、優秀賞6件程度を選定する。
- ・一次審査で発表を行った全研究テーマの中から、受講生間の投票で得票数が多い研究発表テーマについて「受講生投票賞」として表彰する。

5. 審査方法

[小中の部]

◆研究発表：令和6年10月12日（土）

- ・ポスター発表形式とし、受講生間の相互発表と審査員による審査を行う。
- ・研究発表件数は、1機関あたり2件以内とする。
- ・ポスターの形式はA0タテ1枚で作成し、印刷のうえ当日持ち込みとする。
- ・1回あたりの発表時間は、プレゼンテーション10分、質疑応答10分程度とする。
- ・ポスター発表および質疑応答を実施し、その内容と、エントリーシートにより、審査を行う。なお、審査要領は審査員にのみ送付する。
- ・発表回数は相互発表1回、審査2回の計3回とする。
- ・発表内容（研究者、研究テーマ名、分野等）とエントリーシートを事前提出とする。詳細は別途連絡する。
- ・審査割り当てについては、専門分野や希望等を考慮のうえ事務局にて決定する。
- ・各発表に対して4名程度の審査員が独立に研究内容および発表内容について審査し、各審査員は審査シート（5ページ参照）の評価項目欄に要素点を記入する。要素点は以下に示す4段階で行う。

（要素点）

- 4：優れている
- 3：良好である
- 2：やや不十分である
- 1：不十分である

- ・各評価項目欄に記入された要素点の合計をもって、当該研究発表の得点とする。各審査員が独立に審査した得点の平均点をもって当該研究発表の審査基準点とする。
- ・審査の観点等、審査の詳細については別途連絡する。

[高校の部]

◆一次審査：令和6年10月13日（日）

- ・審査委員会および審査員によって審査を行い、二次審査対象者を選定する。
- ・研究発表件数は、1機関あたり3件以内とする。
- ・ポスター発表および質疑応答を実施し、その内容とエントリーシートにより、審査を行う。なお、審査要領は審査員にのみ送付する。
- ・発表時間は10分間、質疑応答は8分程度とする。発表回数は審査3回とする。
- ・ポスターサイズは図表込みでA0（ゼロ）判1枚縦型とし、日本語または英語で作成し、印刷のうえ当日持ち込みとする。なお、発表および質疑応答に用いる言語は日本語または英語（任意）とする。
- ・審査割り当てについては、専門分野や希望等を考慮のうえ事務局にて決定する。
- ・各発表に対して5名程度の審査員が独立に研究内容および発表内容について審査し、各審査員は審査シート（6ページ参照）の評価項目欄に要素点を記入する。要素点は以下に示す5段階で行う。

（要素点）

- 5：優れて達成している
- 4：やや優れて達成している
- 3：概ね達成している
- 2：やや達成が不十分
- 1：全く達成できていない

- ・各評価項目欄に記入された要素点の合計をもって、当該研究発表の得点とする。各審査員が独立に審査した得点の平均点をもって当該研究発表の審査基準点とする。
- ・審査委員会は、原則として審査基準点が3.0以上を満たす得点の高いものについて合議のうえ、10件程度の二次審査対象者を選定する。

◆二次審査：令和6年10月14日（日）

- ・審査委員会によって審査・合議を行い、二次審査対象者から各賞の選定を行う。
- ・発表時間は10分間、質疑応答は5分間程度とする。発表および質疑応答に用いる言語は日本語または英語（任意）とする。

6. 審査委員会

審査委員長（小中の部）

神崎 亮平 東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー

審査委員長（高校の部）

大路 樹生 名古屋大学 特任教授

審査委員

伊藤 哲史 京都大学大学院理学研究科 准教授

大倉 典子 中央大学大学研究開発機構

AI・データサイエンス社会実装ラボ 機構教授

金本 吉泰 酪農学園大学 教授

木村 健太 武蔵野大学附属千代田高等学院 校長

白木原 香織 鈴鹿工業高等専門学校機械工学科 准教授

隅田 学 愛媛大学教育学部 教授

西嶋 美保子 アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, inc.
政策渉外担当ディレクター

西本 昌司 愛知大学法学部 教授

野村 和弘 学校法人河原学園 未来高等学校 校長

福田 公子 東京都立大学理学研究科 准教授

（令和6年6月20日時点）

以上

<小中の部>

サイエンスカンファレンス2024				
審査シート			審査会場	開始時刻
発表番号 実施機関 発表者				
(所属機関)		審査員:	(敬称略)	審査員ID
※！全項目、必ずご記入願います				
ポイント	審査項目	観点	評価	【メモ記入欄】 審査時のメモ(発表者にはフィードバックされません)
目的・意義	目的・仮説	・研究テーマに対する課題意識について、課題と受講者自身との関係に対する説明から探究心・独創性が見られる。 ・研究目的に照らして検証可能な論理的仮説が構築されている。	4	
	背景・意義	研究テーマに関する先行研究や関連分野についてよく調べ、研究テーマの学問的・社会的意義や位置づけを理解できている。	4	
研究方法・態度	研究方法	・研究目的に沿った再現可能な方法が計画されている。 ・工夫した点に受講生自身のオリジナリティや試行錯誤が見られる。	4	
	研究態度	研究計画を主体的かつ粘り強く進めている。	4	
将来性・発展性	進捗状況	必要な資料やデータを適切に分析するなど、研究目的の達成に向かって、研究活動を主体的に進捗させている。	4	
	将来性・発展性	・各段階における研究活動に対して受講生自身の考えを持って発表している。 ・受講生自身の研究に対する展望が明確であり、今後の発展性が見られる。	4	
発表・質疑応答	発表・質疑	発表内容のポイントを踏まえ、受講生自身の言葉で発表している。 質問の意図を理解し、的確に答えている。	4	
【4段階評価の基準(絶対評価)】				
4:優れている 3:良好である 2:やや不十分である 1:不十分である			28	

<高校の部>

サイエンスカンファレンス2024					
審査シート		審査会場			
発表番号 実施機関 発表者					開始時刻
(所属機関)			審査員:	(敬称略)	
審査員ID					
評価の категория	観点	評価	【メモ記入欄】 審査時のメモ(発表者にはフィードバックされません)		
目的・意義	研究の目的	・研究の目的が明快であり、かつ自分なりの独創的な視点が含まれている。	5		
	研究の背景・意義	・研究の学問的・社会的意義や位置づけをよく理解できている。	5		
方法・取り組み	方法	・適切な実験、観察、調査等が計画されており、方法に創意工夫が認められる。 ・(チーム研究の場合) チームメンバーの強み・個性が活かされ、分担あるいはシナジーによるプラスの効果が発揮できている。	5		
	取り組み	・課題や困難な点に、粘り強く、柔軟かつ自立的に取り組んでいる。	5		
結果と考察・成果	考察	・得られたデータや結果に基づき、論理的、多角的かつ深い考察ができています。	5		
	成果	・新たな発見・発明や独自の研究方法の開発など、学問分野やテクノロジーあるいは社会への貢献が認められる。	5		
発表	発表	・研究内容のポイントがよく整理され、わかりやすい発表ができています。 ・質問に対して適切な対応ができています。 ・研究倫理や生命倫理(対象分野のみ)に配慮している。	5		
	今後の発展性	・挑戦的な研究テーマに取り組んでいる。 ・研究の内容が独創的あるいは極めて高い水準に達している。 ・科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材として期待される。	5		
【5段階評価の基準(絶対評価)】			40		
5: 優れて達成している 4: やや優れて達成している 3: 概ね達成している 2: やや達成が不十分 1: 全く達成できていない					